

第18兵站即応中隊、 地域奉仕で表彰される

第18航空団広報局

ZENKO-KA AWARD CEREMONY

第18兵站即応中隊の代表5名と横田基地所属の空軍兵が、東京の明治神宮で行われた日本善行会主催の平成22年度春季善行表彰式で賞を授与された



(写真提供：横田空軍基地)

東京の明治神宮で行われた日本善行会主催の平成22年度春季善行表彰式で、他の米空軍・米海軍の部隊や個人らとともに、第18兵站即応中隊が表彰され、同中隊の代表5名が出席しました。例年、同会では善行活動を行っている個人や団体を表彰しています。

第18兵站即応中隊司令官のダグラス・ディカーソン中佐は、「100名以上の空軍兵とその家族、また日本人従業員の皆さんが、沖縄の様々な場所で色々なボランティア活動に参加してきました。今回の受賞で、チーム・カデナが地域の安全だけではなく、地元沖縄へも貢献していることが証明されたのだと思います」と、話しました。

ディカーソン中佐は、地域社会への奉仕は常に意義あるものとして捉えていると話しました。数年前、横田基地で第374兵站即応中隊の司令官だった中佐は、そのとき初めて善行会の事業について知りました。

中佐は、「イーグル・スカウトとして、子供の頃から善い行いをすることは生活の一部でした」と話し、また「横田基地で勤務しているときは、私の所属する中隊は地域奉仕活動が活発なことで知られていました。チーム・カデナに入った際、善行会について第18兵站即応中隊の空軍兵と日本人従業員の皆さんに話したところ、地域奉仕活動を促進し在沖米軍の評価を向上させる素晴らしいプログラムであると、すぐに理解してくれました」と話しました。

昨年12月には、同中隊の空軍兵と日本人従業員30名が石嶺児童園で140時間以上のボランティア活動を行いました。ボランティアらは、子供たちが利用するレクリエーション施設の修理を行い、新しいスポーツ用具を寄付しました。また、別の25名の空軍兵と日本人従業員は、伊江島の老人ホームを訪れ、園庭や室内の清掃を行い、ホームのお年寄り90名へお菓子やクリスマスギフトを贈り、年末の交流会を楽しみました。さらに中隊では運営する研究所を利用して、地元の小学生を招き実演付き科学教室を開きました。

目次

- Page 1... 第18兵站即応中隊表彰される
- Page 2... 第18運用支援中隊司令官交代式
- Page 3... 嘉手納スペシャルオリンピックス
- Page 4... 那覇ハーリー本番の様子
- Page 5... 米国女性福祉協議会

ディカーソン中佐は、「沖縄での任務は、単に優れた兵站業務を提供するだけではなく、日本の皆さんの良き隣人・ゲストとして振舞う、ということ私たちが部隊の全員が理解しています」と話しました。

第18運用支援中隊 司令官交代式

Change of Command Ceremony

第18航空団広報局

18 OSS

Change of Command



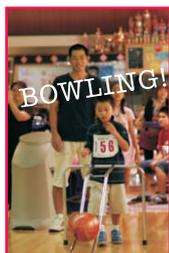
部隊の司令官は2年から3年おきに交代し、中隊以上は司令官交代式が行われます。5月12日第18運用支援中隊の司令官交代式が飛行場内で執り行われました。同運用支援中隊は嘉手納飛行場付近の航空機管制、那覇航空管制内にある米側管制業務、飛行計画調整、気象観測等々を任務としています。

午前9時18分、中隊に所属する隊員たちが整列し、離任する司令官、着任する司令官、上級部隊である第18運用群司令官を迎えました。運用群司令官から中隊の部隊旗が新司令官に手渡され、その瞬間から、新司令官が同中隊の運用責任を負うこととなります。この日、クーガン中佐からミノー中佐へ指揮権が変わり、整列している部隊員たちが新しい司令官に初めての「敬礼」を捧げました。米軍のこのような式典では特に家族の立会いも尊重され、新旧司令官の奥様、子供たちの紹介もあります。この日は米国から新司令官のご両親もかけつけ式典を見守っていました。転勤の多い軍人一家ですが、司令官が家族の支えによって任務を全うできるという感謝の気持ちを挨拶で述べ、奥様に花束を贈る一場面もあり、家族にとってもまた記念すべき日となったようです。

(写真全て、米空軍：クリストファー・ハメル二等軍曹撮影)



2010年の嘉手納スペシャルオリンピックス開催日程が決定しました。県立特別支援学校、沖縄市、嘉手納町、北谷町、米軍基地内に所属する特別支援学級の生徒、また3市町に所属する福祉作業所 施設を中心とする障がいのある方々を対象としてスポーツ競技大会と美術作品展示会が開催されます。9月18日(土)にはボウリング競技、10月14~17日には美術作品展示会、11月6日にはスポーツ競技大会及び美術作品展示会のメインイベントがそれぞれ下記の場所で同時開催されます。昨年はアスリートが848名、そして美術作品展示に出品して頂いたアーティスト410名が参加されました。同イベント開催に向けて、今年も嘉手納スペシャルオリンピックス実行委員会が立ち上げられ、準備や調整に取り組んでいます。



ボウリング競技

開催日：2010年9月18日(土)
場所：シーサイドボウルミハマ(北谷町美浜)
大人の部(19歳以上)：午前9時より
学生の部(7歳~18歳)：午前11時より

スポーツ競技・美術作品展示会

開催日：2010年11月6日(土)
場所：嘉手納基地内ライズナー体育施設

美術作品展示会のお知らせ

応募された美術作品は、下記の日程でサンエー具志川メインシティでも展示されます。多くの方のご来場をお待ちしております。どうぞご観覧下さい

開催日：2010年10月14日(木)~17日(日)
場 所：サンエー具志川メインシティ、1階メインコート

大会主催：嘉手納スペシャルオリンピックス委員会



NAHA DRAGON BOAT RACE

第36回那覇ハーリーでフィーバー！ 空軍男子、8年ぶりに1位を奪回

沖縄のゴールデンウィークの風物詩となった那覇ハーリー競漕が今年も5月5日に開催され、600年の歴史と伝統となる記念すべき第36回目のイベントとなりました。地元・米軍（海兵隊、空軍、海軍、陸軍より男女各1チームずつ）から総計51チームが参加し、速さと技を競いました。空軍女子チームは、「グリット」と「琉球物流」の地元2チームと対戦し、男性チーム相手に健闘しましたが惜しくも2位でゴール。一方、空軍男子チームは「デビル・ドッグ（海兵隊男子チーム）」と「那覇消防本部」とレースし、こちらも2位でゴール。決勝進出にはなりませんでしたが、米軍参加チーム内で見ると、男子が1位空軍、2位海軍、3位 陸軍、4位海兵隊で、また女子は1位海軍、2位空軍、3位陸軍、4位海兵隊という結果に終わりました。米軍内の勝負で1位獲得がすっかりご無沙汰になっていた空軍チームでしたが、空軍男子は2002年以来となる1位に振り返り咲き。空軍男女チームのため夫婦そろってコーチを務めたジェフリー・ディアドフ大尉は、「3カ月に及ぶ練習の成果が報われました」とうれしそうに語ってくれました。「ハーリーは、地元の伝統に関わることができる素晴らしいイベントです」と喜びを語ってくれたのはマイケル・バーク1等軍曹。彼も夫婦で参加し、漕ぎ手としてがんばりました。沖縄に勤務し始めたばかりで、地元との交流を求めて参加したそうです。

(写真全て、米空軍：ジェイソン・レイク二等軍曹撮影)



At NAHA



米国女性福祉協議会、通称AWWA (American Women's Welfare Association) は30年以上の歴史があり、その運営は在沖米国空軍、陸軍、海軍、海兵隊員の夫人らが中心となって行なっています。AWWAの活動に関わっている夫人らは家事や仕事、育児の合間を縫いボランティアとして米軍基地内で運営する雑貨店やリサイクルショップなどで働きます。人件費を抑えたショップ経営から得た利益を資源とし、沖縄県内で地域社会の発展に寄与している日本人やアメリカ人が運営している団体への寄付金や物品寄贈などの支援活動を行なっています。

2010年4月26日、在沖米軍基地キャンプ・シールズにてAWWA主催のフレンドシップ昼食会が開催されました。AWWAはこのような懇親会を毎年1回春に開いています。支援した団体の代表者、また資金集めを企画・実施した夫人らを含む約130名を招いて和やかに行われました。会場にはAWWAから支援を受けた福祉作業所や教育関係機関の活動を紹介した色とりどりの展示パネルや作品が並び、AWWA会長の挨拶、嘉手納ハイスクールの合唱部員によるダンス・歌など華やかで国際的な雰囲気の中、昼食会が進みました。2009年度、AWWAからうるま市福祉協議会、恩納村福祉協議会などを含む多くの地元団体及び米軍基地内団体に合計180,000ドル（約16,200,000円）相当の寄付・寄贈がなされたとの報告がありました。昼食会に出席した地元福祉活動関係団体の代表者や支援活動を支えるAWWA会員の夫人らは口々にこれからも地域社会の発展の為、努力していきたいと語っていました。



AMERICAN
WOMEN'S
WELFARE
ASSOCIATION

